

An illustration of a meeting table with a large light orange rectangular area in the center. Surrounding this area are various hands and objects: hands holding pens, a smartphone displaying a bar chart, a clipboard with a document and a line graph, a coffee cup, a pair of glasses, and hands pointing or holding documents. The overall theme is a collaborative meeting or presentation.

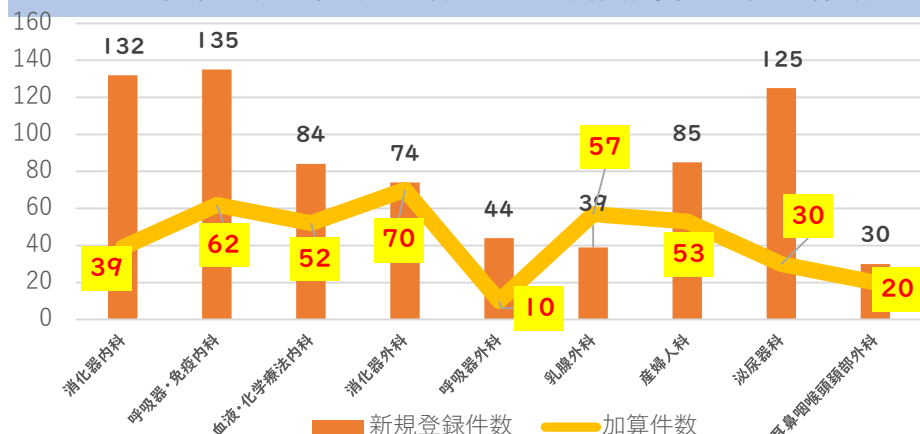
2025年度 リソースナース会 活動報告

がん性疼痛看護認定看護師

☆がん患者さんご家族等の意思決定サポート (がん関連認定看護師で対応)

がん新規登録件数2025年度 776 件・がん患者指導管理料イ件数 396 件 (全体の約51%)

主な診療科別悪性新生物登録数とがん患者指導管理料イ加算件数



がん看護相談 (がん関連認定看護師で対応)

2025年度 相談対応件数 (526件) 院外：8 件 院内：518 件

* がん治療センターのリーフレット (3つ折り) を作成



☆自殺防止対策マニュアル完成

がん治療センター、医療安全委員会、安全衛生委員会と協働し
マニュアルを作成し、院内の自殺対策の体制を整備

- * まず看護師が気づき、チームにつなぐ仕組みを整えることが重要
- * スタッフ各自の感知能力アップ→対応力アップをしていき、フローの適宜修正。

☆院外活動：学会発表

第17回日本医療マネジメント学会
大阪府支部学術集会 口演

演題

「がん患者・家族支援における
認定看護師と訪問看護師の連携」

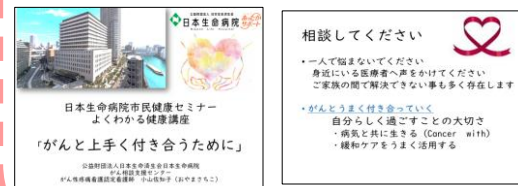
大腸がん患者、症状コントロールが困難な
患者と介護に疲弊する妻に対して病院の認
定看護師と在宅を支える訪問看護師が連
携し支援を行った症例を報告した

☆市民講座

日本生命病院市民健康セミナー
よくわかる健康講座 (2月)

テーマ

「がんと上手に付きあうために」



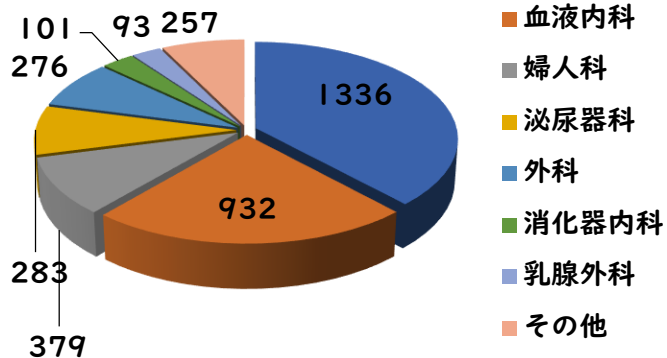
2026年度目標

病名、病状告知時の支援、AYA世代への支援体制の強化

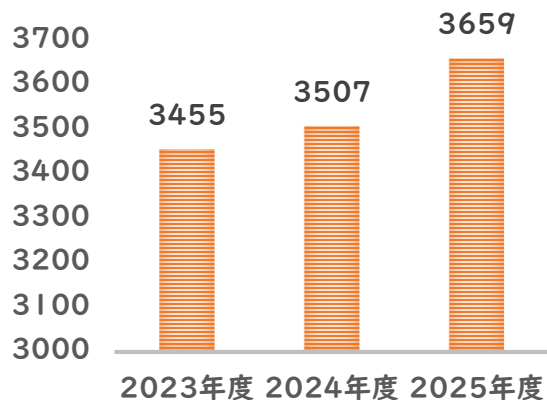
がん化学療法看護認定看護師

☆がん化学療法実施内訳と年間実績

科別・外来化学療法の割合
2025年度（3659件/年）



■外来化学療法室 利用者延べ人数



☆がん化学療法看護チーム会の活動

ICEスコア チェック項目

- ① 現在の年、月、都市名、病院名が分かる 4点(各1点)
- ② 3つの名前が言える (例: 時計、ペン、ボタン など) 3点(各1点)
- ③ 指を2本立ててくださいという指示に従える 1点
- ④ 文字が書ける+乱れがなく正しい文章が書ける 1点
- ⑤ 引き算ができる 100から10ずつ引いた数を言える 1点

ICEスコアとICANSのGrade分類

- 10点 : 障害なし
- 7~9点 : Grade1
- 3~6点 : Grade2
- 0~4点 : Grade3
- 0点 : Grade4

*ICEスコアが0点の患者において、意識状態で全失語が認められる場合はICANS Grade3に分類される。意識不能かつ全失語が認められる場合はICANS Grade4に分類される。

- ① 二重特異抗体製剤副作用CRS/ICANS経過観察セット作成 運用開始
 - ② 口腔ケアアセスメントシートのエクセルチャートスケールにOAGの画像追加
 - ③ 化学療法用チェックリストの修正
 - ④ 同意書欄追記と脱毛率が高い薬剤の記載追加
- チーム会主催デリバリー研修 各病棟合計14回実施

☆加算算定件数

加算名	件数
外来腫瘍化学療法診療料Ⅰ(Ⅰ) 800点 初回~3回目まで	2925件 (+482)
外来腫瘍化学療法診療料Ⅰ(Ⅰ) 450点 4回目以降	190件 (+77)
外来腫瘍化学療法診療料Ⅰ(Ⅱ) 350点 (Ⅰ)以外の必要な治療管理を行った場合	525件 (+87)
連携充実加算 100点 (かかりつけ薬局との薬連携)	1639件 (-14)
外来化学療法加算B(生物学的製剤) 570点	225件 (-20)

☆リンパ浮腫認定ナース

リンパ浮腫指導管理料 100点(入院中)	リンパ浮腫指導管理料 100点(退院後・外来)
49件	45件
リンパ浮腫ケア外来 (自費初診) 4400円	リンパ浮腫ケア外来 (自費再診) 3300円
0件	71件
※6月以降の自費診療=6600円・5500円に値上げが決定しました	
リンパ浮腫複合的治療料 200点(重症)	リンパ浮腫複合的治療料100 点(重症以外)
164件	20件

☆院外講師・学会発表

淀川キリスト教病院がん看護コース講師

- 乳がんの疾患の理解と看護
- がん薬物療法を受ける患者の看護

大阪府看護協会研修講師

- がん薬物療法を受ける患者の支援

日本癌治療学会学術集会ポスター発表(外来看護師と協働)

- ACP支援推進に向けた外来看護師の実践
- ～患者の思いを聴き、価値観を共有する取り組み～
- がん薬物療法看護認定看護師養成コース実習指導者
- 2025年11月4日～12月2日 2名受け入れ
- 神戸研修センターにてケースポート発表会に参加

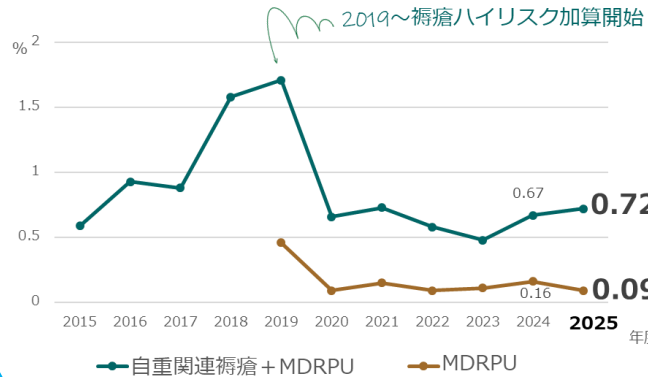


2026年度目標

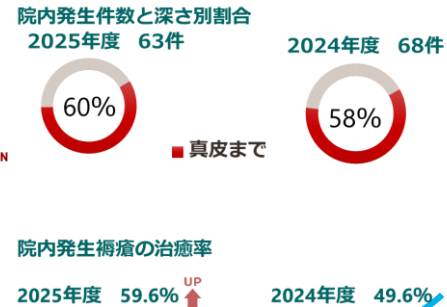
- ①ACP支援をもっと身近にしていける取り組み(病棟・外来連携カンファレンス)
- ②2026年度がん治療センター主催がん看護実践力向上コースの立ち上げ

皮膚・排泄ケア認定看護師

2019年褥瘡ハイリスク加算を導入後、院内発生率は継続して1%未満を維持している。
褥瘡の深さは真皮レベルの浅い損傷が多い。
院内発生した褥瘡の治癒率は、約60%と上昇傾向である。



院内発生患者の平均年齢 76.9歳
自立度 63% 自立度C
診療科別割合 26%呼吸器内科

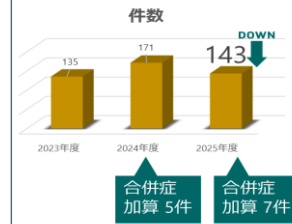


自重関連褥瘡とMDRPUの発生TOP3

	1	2	3
自重関連褥瘡 (48件)	尾骨	踵部	仙骨
MDRPU (15件)	血管留置針	チューブ類 (Ω止めの未実施)	酸素カニューラ

その他の活動

ストーマ外来



特定行為

陰圧閉鎖療法

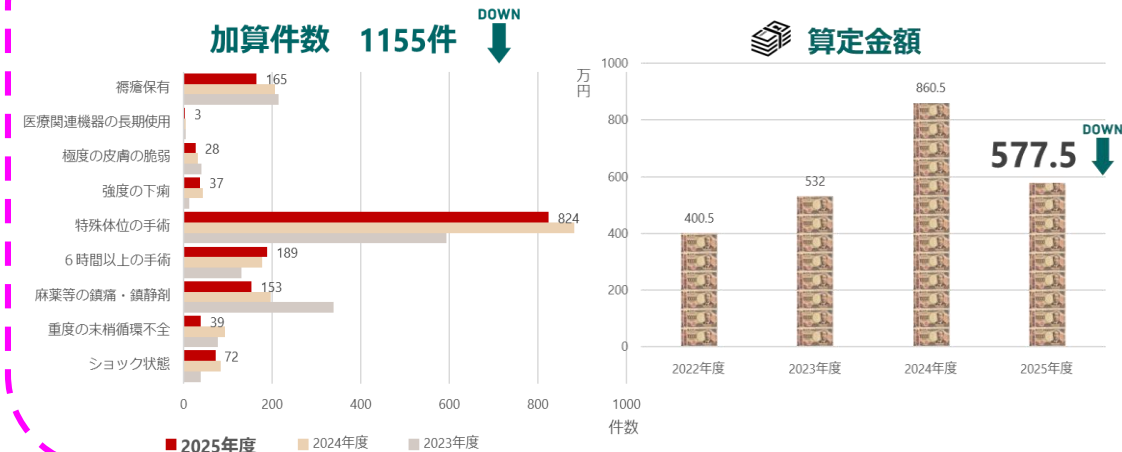


消化器外科SSI症例：12件
D3以上の褥瘡患者：3例

学会 院外活動

- jsrr 全国誌へ論文投稿
- 5月 大阪緩和ケア連携カンファレンス：講演
- 11月 ストーマ装具代理店とメーカー共催のストーマケアセミナー：講師

褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況



2026年度の課題

01 入院時、持ち込み褥瘡を見逃さない



皮膚の観察強化と丁寧な問診と説明

02 終末期患者の体圧分散ケア



浮腫 疼痛 呼吸困難
特殊機能マットレスを一般病棟でも使用可能に

03 皮膚の異常に気付く力

予防ケアに加え、発生機序や治療過程の知識と臨床経験の育成

04 ケアの共有と実行

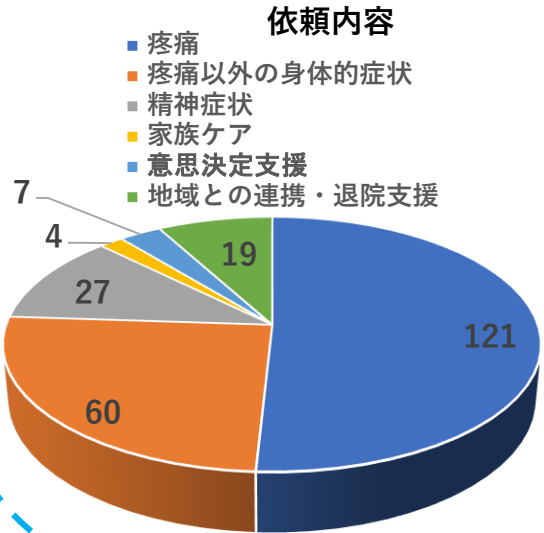
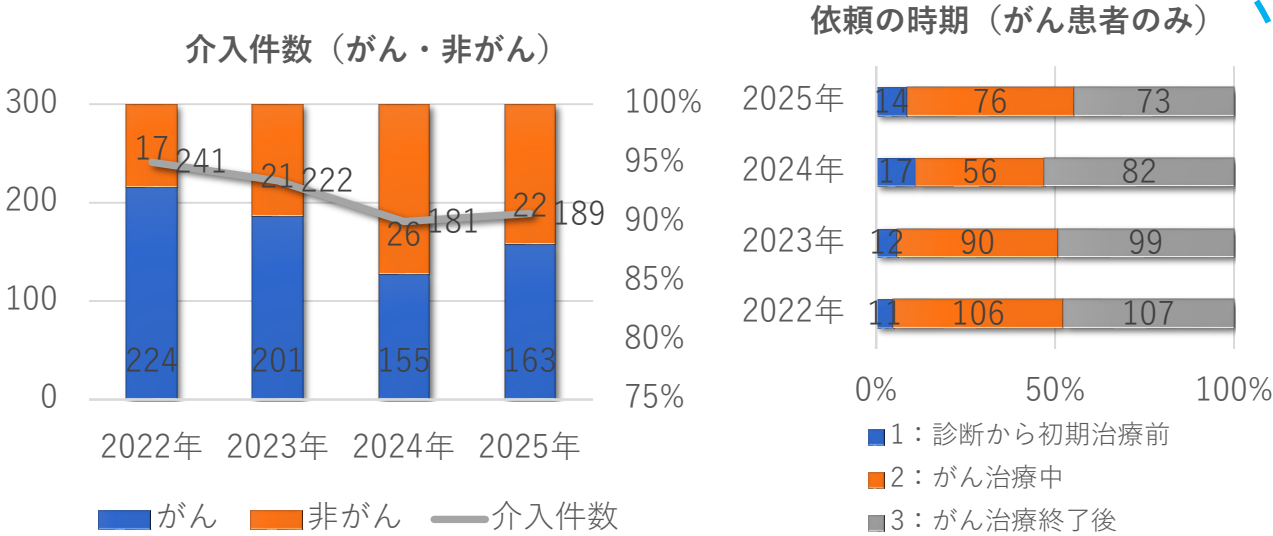


現場でPDCAサイクルを循環させ、成果をだす



緩和ケア認定看護師

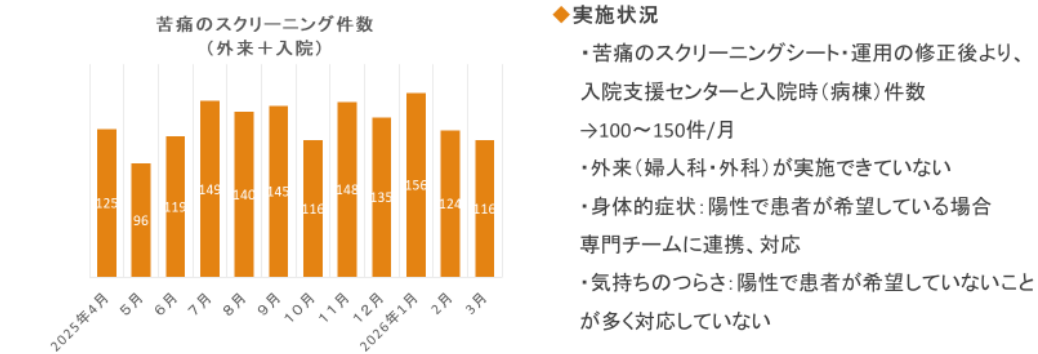
☆緩和ケアチーム介入状況と年間実績



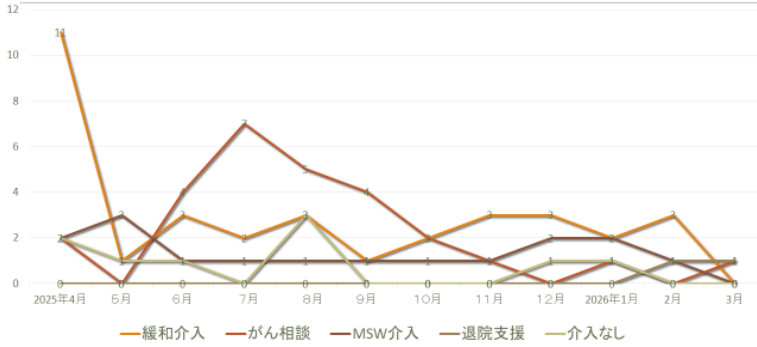
令和8年度診療報酬改定
→緩和ケア診療加算の対象患者が明確に拡大
追加された対象患者
・末期呼吸器疾患
（例：COPD末期、間質性肺炎の終末期など）
・末期腎不全
（透析困難・中止を含む終末期状態）
今後非がん患者の対応を緩和ケアチーム内
でも対応を検討中

☆緩和ケアチーム会の活動

苦痛スクリーニングの運用と改善



対応件数（外来＋入院）



苦痛のスクリーニング
陽性時の対応として、
緩和介入とがん相談で
の対応が多くみられた

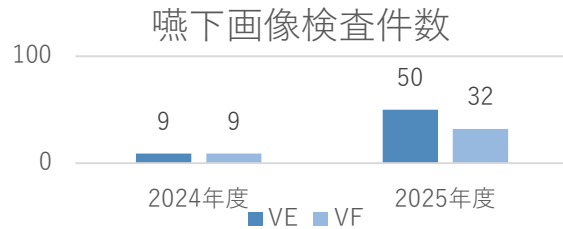
- 2026年度目標
- ①苦痛のスクリーニングの活用し、
苦痛の早期発見と適切なケア支援の介入
 - ②非がん患者の症状緩和の対応（緩和ケアチーム）

摂食・嚥下障害看護認定看護師

2025年度1月～摂食支援チーム（SST）を立ち上げ

- ・耳鼻咽喉・頭頸部外科Dr
- ・摂食・嚥下障害看護認定看護師
- ・言語聴覚士3名
- ・管理栄養士2名

週1回のカンファレンスや嚥下画像検査の実施を行い
リハビリ内容や食形態、栄養管理等の検討



嚥下内視鏡検査（VE）
前年度の約**5.6倍**

嚥下造影検査（VF）
前年度の約**3.6倍**

課題：チームの知名度アップ、嚥下障害の早期スクリーニング

NST/摂食嚥下障害看護チーム活動

“Nsの口腔ケア実践の強化、食べられる環境作り”

看護チームで口腔ケアラウンドの実施 → 年間**50**症例

- *ラウンド時にリンクNsと口腔ケアについてカンファレンス
- *定期的なOAG評価でケアの見える化
- *症例を振り返り、実践へ繋がる取り組み
- *CNが現場でのケアを知ること現場の問題を把握

リンクNsの取り組みを看護師を対象に院内メールで報告しアンケートを実施

課題：ケアを継続させることの困難さ

医科歯科連携の推進

2025年度 7月～NSTに歯科医が参入し、口腔機能管理を強化
NST歯科連携加算件数 390件/年

当院には歯科はなく、外部歯科医との連携を強化することで
口腔機能管理がより専門的に介入可能となった。

課題：NST対象者以外の口腔機能管理について

学会発表

第22回日本医療マネジメント学会
福岡支部学術集会 口演

演題
「高齢者の口から食べたい思いに寄り添う
意思決定支援～摂食・嚥下障害看護認定
看護師としての役割」

研修

第177回日本生命病院医学セミナー
UpDATE 口演
“高齢者の嚥下障害”

それぞれの課題を振り返り… ～2026年度 目標～

- ① SSTの本格的活動を開始
- ② 医科歯科連携の強化
NST対象者以外の患者への口腔機能管理の実施
- ③ 看護師による口腔ケア実践力の向上～STEP2へ～

☆実践

- ・ 病状説明同席：51件/年（＊48件/年） ＊がん患者指導管理料イ
- ・ 看護相談：26件/年（16件/年） ＊がん患者指導管理料ロ

☆相談・指導

- ・ 病状説明同席後に病棟看護師と共有し、看護ケアACPの聴取など提案
- ・ 病棟への出張勉強会（6回/年）
過敏症、血管外漏出、悪心について
- ・ 外来化学療法室とカンファレンス（5回/年）
- ・ 新人研修講師：曝露対策（4月）

☆看護研究

テーマ

「がん薬物療法を受ける患者へのセルフケア指導の意識および実践調査」

対象：病棟看護師 方法：質問紙調査 回収率：87.5%

結果：セルフケア指導項目中、感染予防は97%は高いが
irAEについては15%と低かった

＊上記結果を踏まえて、セルフケア指導のシステム構築を検討中

新規薬剤（二重特異性抗体薬）マニュアル整備と実践

- ・ 呼吸器内科医師、薬剤師、がん化学療法看護認定看護間で連携しマニュアル作成
- ・ 病棟看護師への教育
- ・ 症例カンファレンス（初期対応の振り返り）
- ・ タルラタマブ投与症例数：15例

☆学会講演

第40回日本がん看護学会学術集会 教育セミナー講演
演題「CRS/ICANSに備えた看護ケア・多職種連携の実践
～タルラタマブ投与前後の準備/家族への関わり～」

☆がん薬物療法IVナース 育成に向けた準備

- ・ 認定プログラム作成
- ・ 講義資料作成
- ・ 医療安全、化学療法運営委員会との連携

2026年度目標

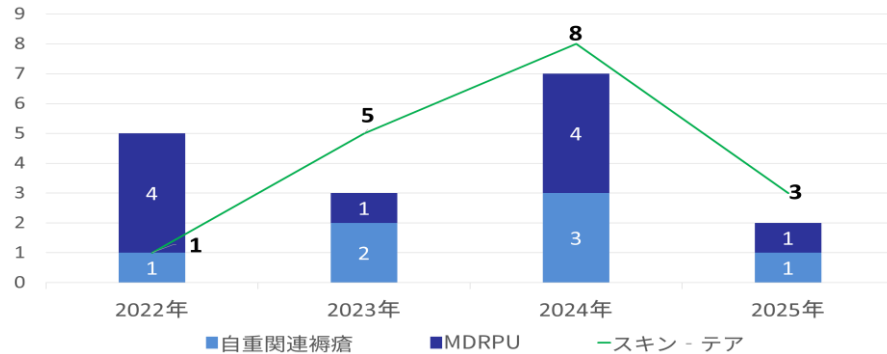
- ①テンプレート、エクセルチャート使用による「セルフケア指導」システム運用開始
- ②がん化学療法看護チーム会で病棟ラウンド実施、リンクナースの育成
- ③IVナース育成

皮膚・排泄ケア認定看護師

☆褥瘡

高機能マットレスの運用変更に伴う運用ルール の策定
集中治療室の全スタッフにポジショニング体験とスキン-テアの勉強会を実施

集中治療室における褥瘡・MDRPU・スキン-テア発生の推移

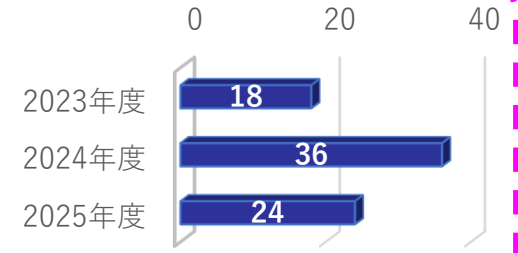


褥瘡・MDRPU約70%、スキン-テア約60%減少

☆ストーマケア

ストーマケア介入件数 45件

人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
24件



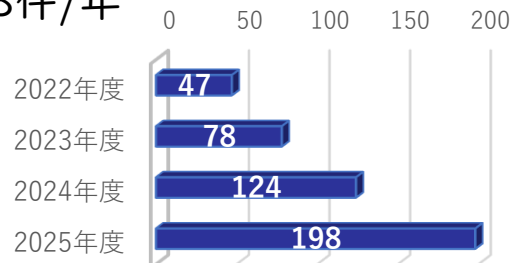
ストーマサイトマーキング未実施件数 4件

- 看護師によるストーマサイトマーキングができない場合に備え、外科医へエリアマーキング方法を説明
- 全患者ストーマサイトマーキング実施に向けて医師・看護師間の情報共有システムを整備

☆排尿ケアチーム

排尿自立支援加算 198件/年

- 排尿自立支援ケア
- 尿失禁・尿閉への対応
- CAUTI予防策の徹底



- 排尿ケアチーム主催の院内研修会の開催
- リハビリと連携し排尿ケアチームが積極的に対象者を抽出

排泄物の漏れやおむつ外し時のおむつ
フィッティングの実施

2026年度 目標

- 専任看護師の育成及び相談対応の拡充により褥瘡発生率の低減を図る
- 全患者にストーマサイトマーキングの実施
- 病棟側からの排尿ケアチーム介入依頼件数増加を目指す

クリティカルケア認定看護師

病棟内活動

病棟に根ざした継続教育

症例勉強会

事例を通して理解を広げる

OJT

現場での実践的指導

個別対応

スタッフのレベルに合わせた支援

院内活動

院内教育プログラムの展開

ABC教育

気道・呼吸・循環
系統的評価

フィジカルアセスメント

身体所見の正確な
観察

急変対応整理

見るポイントの
統一
対応の統一

院外活動

- 大阪府看護協会 フィジカルアセスメント研修担当
- 区民祭り/日生子供フェアAED講習
- 第17回日本医療マネジメント学会大阪府支部学術集会
～救急外来におけるDV被害者への看護～

今後

今後の取り組み方針

01 教育の継続

02 指導者の育成

03 院内展開

04 RRT導入

05 RRSの普及

老人看護専門看護師

せん妄・認知症ケア

院内ケアチームの体制見直し



- ・認知症看護CNと老人看護CNS2人で新規介入依頼に対応する体制へ変更
- ・活動日を1日→2日へ増やす
- ・活動用PHSを持つ



依頼から介入までの日数が短縮

前年度 平均1.7日 → **1.15日**
最長9日 → **5日**

リンクナース育成と連携



- ・アセスメント指標や介入フローの解説
- ・せん妄予防ケアの勉強会
- ・認知症ケア研修の伝達講習会
- ・加算件数データの共有



リンクナースが自信を持って部署で活動

せん妄予防パンフレット配布対象が拡大

手術予定患者のみ→**70歳以上・認知症を疑う人も追加**

2025年度実績
認知症ケア加算Ⅰ
算定患者数 **362**人(前年+84人)
実数 **6831**件(前年+143件)
せん妄ハイリスクケア加算
算定件数 **4201**件(前年-173件)

身体拘束最小化の取り組み

2025年6月～2026年3月 身体拘束実施率
病棟：**2.4%** HCU：**34.9%**

最小化チームの活動開始



- ・身体拘束最小化チームの立ち上げ
- ・2回/月のラウンド開始
- ・事例ごとの最小化に向けたケア方法の検討
- ・職員へ実施状況の周知

指針に沿った運用



- ・医師の指示出しセットを作成
- ・トップページのお知らせ掲載
- ・経過表やカンファレンス記録に残すことの周知
- ・多職種カンファレンスの呼びかけ

リンクナースとの協力



- ・せん妄予防/認知症ケアの重要性を強調
- ・身体拘束に対する指針の読み合わせ
- ・事例の共有
- ・実施率のデータを共有
- ・各部署の傾向の洗い出し

院内の活動



- ・経年別研修講師
看護研究の基礎①②
リフレクションについて
看護を語る
看護研究支援
- ・身体拘束最小化研修講師
- ・NISSAY NURSE TIMES発行

研究関連



- ・看護研究相談
- ・3年目事例研究の評価
- ・研究指導における課題抽出
→2026年度教育計画に提案

院外の活動



- ・日本老年看護学会 第30回学術集会
ポスター発表
- ・認知症カフェ 講話担当
- ・地域連携看護セミナー 講師
- ・西区ケアマネ事例検討会
- ・社会福祉協議会連絡会 講師

2026年度の取り組み

病棟のケアとチーム活動を連動しながら、ケアの質向上を目指す

身体拘束最小化

- ・委員会の立ち上げ
- ・体制整備
- ・実績の積み上げ

せん妄・認知症ケアチーム会

- ・アセスメントをケアに繋げる
- ・記録、看護計画の見直し
- ・リンクナースの育成

認知症ケアチーム

- ・チームの再構築
- ・効果的に介入できるシステムづくり
- ・マニュアルの改定



個別性のある認知症（高齢者）ケアが実践できる人材の育成と体制の構築

手術看護認定看護師

術前看護外来

2024年度 292件 2025年度 289件



■ 認定看護師
■ その他看護師



■ 認定看護師
■ その他看護師

局麻だけど発達障害があるから対応してほしい

装飾品除去に同意してくれない/外れない

パーキンソンがあってタバコも吸っているから周術期のほうがいいと思って..

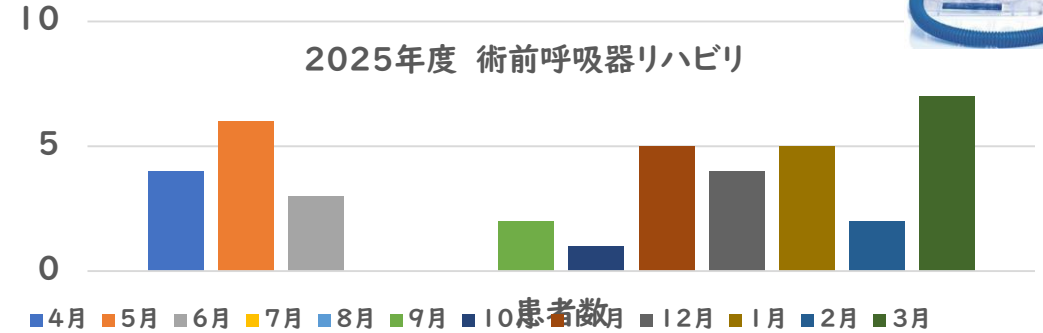


外来看護師

外来看護師の気づきもあり
必要な患者に対応することができている

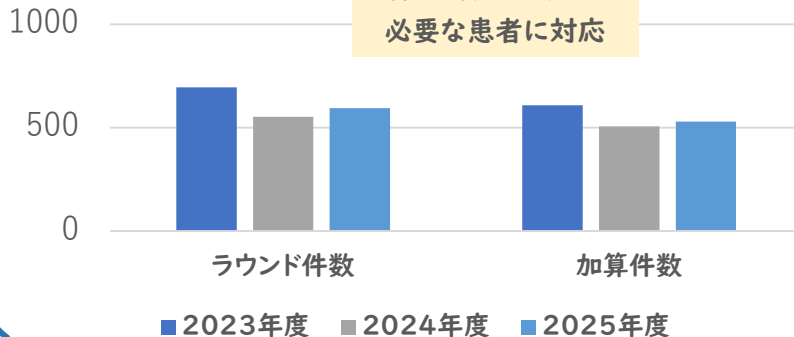
プレハビリテーション

介入件数は増加傾向



術後疼痛管理チーム活動

加算の有無に関わらず
必要な患者に対応



学会発表・執筆

- 第47回日本手術医学会総会
「がん手術を受ける後期高齢者に効果的なプレハビリテーション指導」
- 第17回日本医療マネジメント学会
大阪府支部学術集会
「術後疼痛管理チームでの取り組み～活動開始から3年目を迎えて～」
- 手術看護エキスパート 19巻第4号
「手術看護記録の質向上のための取り組み」

2026年度目標

- 手術室看護師のアセスメント能力、看護実践能力の向上。
手術看護の伝承。
- 術前看護外来件数の増加
(300件/年、2025年度は289件)
- 術後疼痛管理チーム介入件数の増加
(600件/年、2025年度は594件)
- 知識不足によるVTE発症を未然に防ぐ

救急看護認定看護師(特定行為研修修了)

モニターラウンド開始

- *月に1回、災害・救急看護チーム内の30分を使用してラウンド。
- *「個人に合わせたアラーム設定」「装着の必要性」などをラウンドメンバーでディスカッションをしています。



*臨床工学技士と共にラウンドを行う事で、医療機器トラブルの早期対応ができています。

学会発表

第17回日本医療マネジメント学会 大阪府支部学術集会 共著
演題 「救急外来におけるDV被害者への看護」

救急外来では、DVや虐待など身体的・精神的な被害を受けて受診する患者さんが少なくありません。被害を受けてることに、気づいて寄り添い、多職種と連携をとりながら患者の安全を確保する。症例を振り返り、DV被害者への看護を深めてもらうために、後輩であるクリティカルケア認定看護師に発表してもらいました。

防災・災害看護について

年に2回、地震・火災時の防災訓練をしています。当院の構造上、上下階に避難せず、病棟内での水平移動で避難できます。訓練の成果で水平移動がスムーズになってきましたので、今年度は外来での訓練をおこないました。1日平均900人前後、来院されるので、安全な場所に落ち着いて避難できるように、アクションカードの見直しも含めた訓練をおこないました。

教育・特定行為

- *急変時、災害時の看護の講義をしています。
- *クリティカルケア認定看護師教育課程の仕事も引き受けています。
- *特定行為として「気管チューブ位置の調整」「人工呼吸器関連」の実践数が多いです。

2026年は何をする？

急性期分野の診療報酬が改定されたことに対応する必要があります。救急車受け入れ件数の維持、院内迅速対応チーム(RRT)の積極的運営、夜間・休日トリアージの実施に取り組んでいきたいと思っています。



糖尿病看護認定看護師(特定行為研修修了)

外来(糖尿病・内分泌センター)

2025年度 総受診患者数(入院患者含む): 2008名  (1870名)

糖尿病合併症管理料 170点/月

糖尿病足病変の患者に対して医師又は医師の指示に基づき看護師が当該指導を行った場合

107件
(119件) 

在宅療養指導 170点/月

注射製剤を使用している患者に指導を行った場合

698件 
(644件)

糖尿病透析予防指導管理料 350点/月

医師が透析予防に関する指導が必要であると認めた入院中の患者以外の患者に対して医師、看護師、管理栄養士が共同して必要な指導を行った場合

691件 
(681件)

学会発表・院外活動

- ・第17回 医療マネジメント学会 大阪支部学術集会 口演
「自己管理が困難な1型糖尿病患者に

モニタリングデバイスを利用した一事例」

高次脳機能障害のある1型糖尿病患者にデバイスを活用した結果、低血糖回避にはつながったが、データを活用し、行動変容につなげるには患者と家族への指導は必須であり、データ管理が効率的にできる院内体制整備も今後の課題である。

- ・テルモ株式会社 勉強会
「血糖管理デバイスを活用した療養指導」

院内活動

- ・糖尿病を持つ患者・家族の支援
- ・スタッフ使用測定器をPOCT器へ変更(精度UP)
- ・患者使用測定器の変更(コスト削減)
- ・インシデント・アクシデントの把握、対策検討
- ・院内勉強会「糖尿病患者さんが使う機器のあれこれ」開催

糖尿病ケアチーム会

- ・新人看護師への注射製剤勉強会
- ・インシデント・アクシデントの把握、対策検討
- ・自己注射 看護と記録の充実
(Excelチャート、テンプレート作成、使用開始)

2026年度目標

- 「つなぐ看護」をめざして
 - ・外来→病棟、病棟→外来、退院後訪問・・・
 - ・退院時カンファレンスへの参加
- インシデント・アクシデントの減少
 - ・医療安全、各部署と情報共有 対策検討
 - ・電子カルテ更新=医師指示統一のチャンス! →医師指示入力の移行作業
- 糖尿病に強い看護師の育成

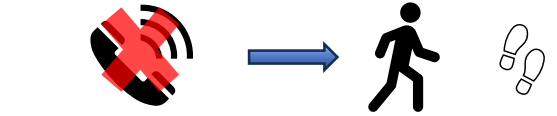
受動的ではなく能動的に活動することを目標にした2025年度

院内活動実績：現場ラウンドと迅速なコンサルテーション



1日1回の院内ラウンド
環境・予防策等の確認と
即時フィードバック

微生物検査等の確認・周知
(ICT Mate活用)
→耐性菌検出時対応
フロー図を作成



電話のみではなく、まずは現場へ赴く
対面コンサルテーション

【結核】 【麻疹】 【疥癬】
【トコジラミ】 【COVID-19】 等

耐性菌検出時や感染症患者入院時に、
標準予防策か経路別予防策か現場が迷わない具体的な方法を提示する

CLABSIサーベイランス実施

2025年度の感染率・使用日の調査により
当院のベースラインが明確化

2026年度アクション

カテーテル管理の現状調査へ移行
データに基づき、管理状況と
感染率との関連性を多価格的に分析する

* 並行して手術部位感染 (SSI) サーベイランス実施

地域連携活動

- 大阪市感染管理ネットワーク会（全体会、西部ブロック会）
- 大阪府感染管理認定看護師ネットワーク会：3支部合同感染対策研修会ファシリテータで参加
- 加算1-1連携相互ラウンド、感染対策向上病院連携合同カンファレンス、アウトブレイク対応（訪問・環境ラウンド）
- 西区・港区医師会ICT便りの発刊（輪番制：年3回）

CN

院内感染対策委員会月1回

ICT/AST活動週1回

看護感染委員会

(月1回開催)

リハビリ部門への介入

4月新入職者対象
感染対策研修の実施

- 院内感染対策委員会
届出感染症、感染症週報、手指消毒剤月別
部署別納入量、針刺し・切創、粘膜曝露事故
報告と相談対応事例報告等
- 院内感染対策教育講演会：講師
「知ってるつもりの感染対策～手指衛生と咳
エチケットの基本をもう一度～」

- 手指衛生直接観察法
・観察法についての勉強会
・実践トレーニング実施
・結果集計と
フィードバック
- 環境ラウンドの方法と
観察のポイントについてレクチャー

- リハビリ部門へ手指衛生直接観察法を開始

2026年度の目標

- 組織的な感染対策の底上げ
多職種（リハビリ・臨床工学技士・研修医）への介入
- 感染管理活動の見える化：活動内容を知ってもらえる機会を作る
- データに基づいた介入強化：中心静脈カテーテル管理の現状調査
- 地域連携強化：地域からの相談、講師依頼に柔軟に対応する